

湯の丸高原ホテル

Yunomaru Kogen Hotel
(長野県東御市)



スキーシーズンが始まった。残念ながらこの時期はどこも人工雪である。人工雪と言っても、水を高圧で大気中に噴出して凝固させるシステムの場合、それなりに気温が下がらなければ雪を作ることができない。したがって、この時期にオープンするスキー場は標高の高いスキー場に限られる。東信地区では地蔵峠にある湯の丸と車坂峠にあるアサマ 2000 の 2 か所がそれに相当する。

今シーズンの初滑りは湯の丸に決めた。湯の丸がオープンさせるバーンは緩斜面で、足慣らしにはもってこいだからだ。そして、リフト券代込の格安プランで湯の丸高原ホテルに宿泊。ゲレンデ近くの宿に泊まれるというのは、体が楽でありがたい。

湯の丸高原ホテルには温泉も露天風呂も完備。もちろん、スキー乾燥室、コインランドリーも完備されているので、スキーヤーの長期滞在にも対応。和室の客室にはハンガーが 10 個もあり、濡れたスキーウェアを乾かすのには重宝する。その他客室には湯沸かしポットも完備。カップラーメンやインスタントスープを食することもできる。さすがに客室に電子レンジはないが、ためしにフロントに聞いてみると、頼めば厨房の電子レンジで食材の加熱をしてくれるという。さらに、アイシングのための氷は、フロント前のバー兼喫茶コーナーで入手できる。

さて、前置きが長くなったが、湯の丸高原ホテルの温泉を紹介していこう。温泉はフロントの左手奥にある。日帰り入浴の場合は、フロントで入浴料を払うことになる。脱衣室手前にコインランドリーと休憩スペースがあり、マッサージ椅子も 1 つある。脱衣室の入口には 100 円硬貨返却式の貴重品ロッカーもあるので、貴重品を持参しても大丈夫だ。



露天風呂



内風呂

脱衣室にはロッカーはなく、脱いだものを入れる棚が 24 個ある。洗面台、ドライヤーも完備している。浴室はシンプルだ。右手に洗い場が 7 か所、左手にシャワーが 1 か所、正面に長細い形状の内湯がある。洗い場にはシャンプーとボディーソープが完備。シャワーはブースではないが、広いスペースに設置されているので、湯水が周囲に飛び散るのをあまり気にする必要はないであろう。内湯はやや熱めの温度。定員は 20 人くらいだ。

露天風呂へは 15m ほどの長さの狭い廊下を経由していく。途中にサウナがある。サウナ室入口にはシャワーブースがあり、サウナで出た汗を流すことができる。水風呂はない。サウナは定員 8 人くらい。室内温度は 78℃だった。

露天風呂は岩風呂で、なかなか雰囲気が良い。湯温は 41℃を示しており、長湯が可能な温度だ。定員は 6 人と少々小さめ。露天風呂の周囲には木製の雨戸があり、取材日はこれらが開放されていた。雨風雪が強い時や、シーズンオフの時はこれを閉めるのであろうか。

まだまだスキーシーズンは始まったばかりであるためか、ホテルの稼働状況には余裕があるようだった。温泉が混雑することはなく、ゆったりとスキーの疲れを癒すことができた。

湯の丸高原ホテルは湯の丸スキー場を一体経営しており、修学旅行や団体合宿には最適な場所である。夏は周辺の登山も可能で、アサマ 2000 まで至る登山コースもある。また、ロードバイクによる地蔵峠越えのサイクリングも可能だ。周辺には温泉がたくさんあり、蕎麦、胡桃、きのこ類、干し柿、リンゴなどの特産物もある。

ちなみに、湯の丸高原ホテルの湯はマグネシウム・ナトリウム-炭酸水素塩泉（中性低張性温泉）で、神経痛、筋肉痛、関節痛、五十肩、運動麻痺、関節のこわばり、うちみ、くじき、慢性消化器病、痔疾、冷え症、病後回復期、疲労回復、健康増進、きりきず、やけど、慢性皮膚病に効くという。

今シーズンもスキーと温泉を思いっきり楽しみたい。

DATA

名称	湯の丸高原ホテル
所在地	長野県東御市湯の丸高原
電話	0268-64-0400
営業時間	宿泊者は 11:00~翌朝 9:00 日帰り者は要確認
定休日	無休
入浴料	大人 650 円、小人 350 円（宿泊者は無料）
サウナ	あり
サウナ内のテレビ	なし
取材日	2016 年 11 月 26 日（土）、27 日（日）
取材	銭湯愛好会東京支部